



新年記者会見(07年の抱負)

アグレッシブな行動と拡大への挑戦

東洋紡

取締役社長 坂元龍三

2007. 1. 12

当社の歴史 と 今果すべき役割

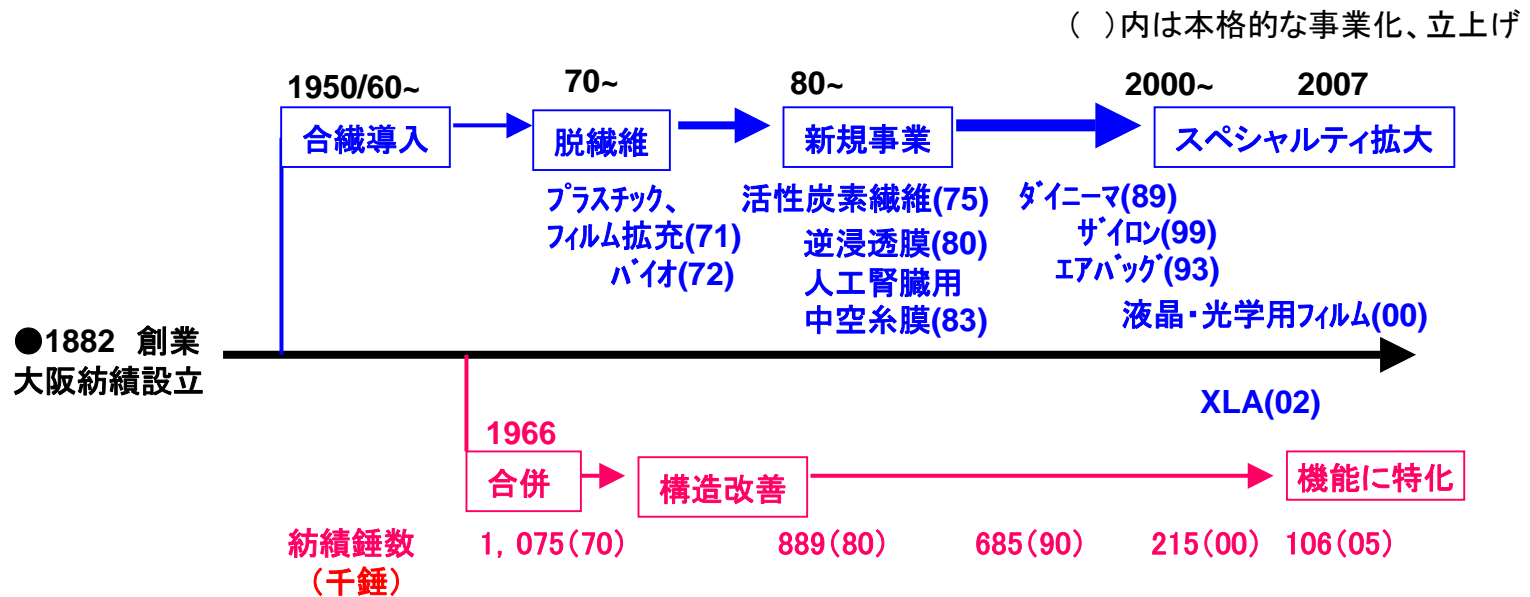
1970年からの歴史

今(2007年)果たすべき役割

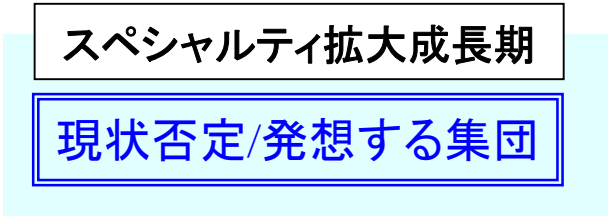
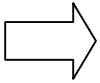
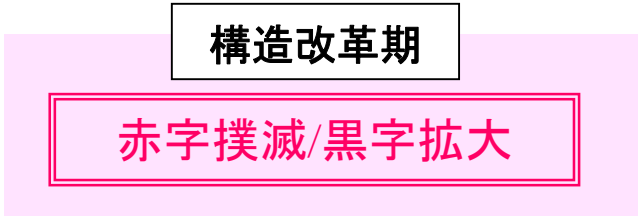
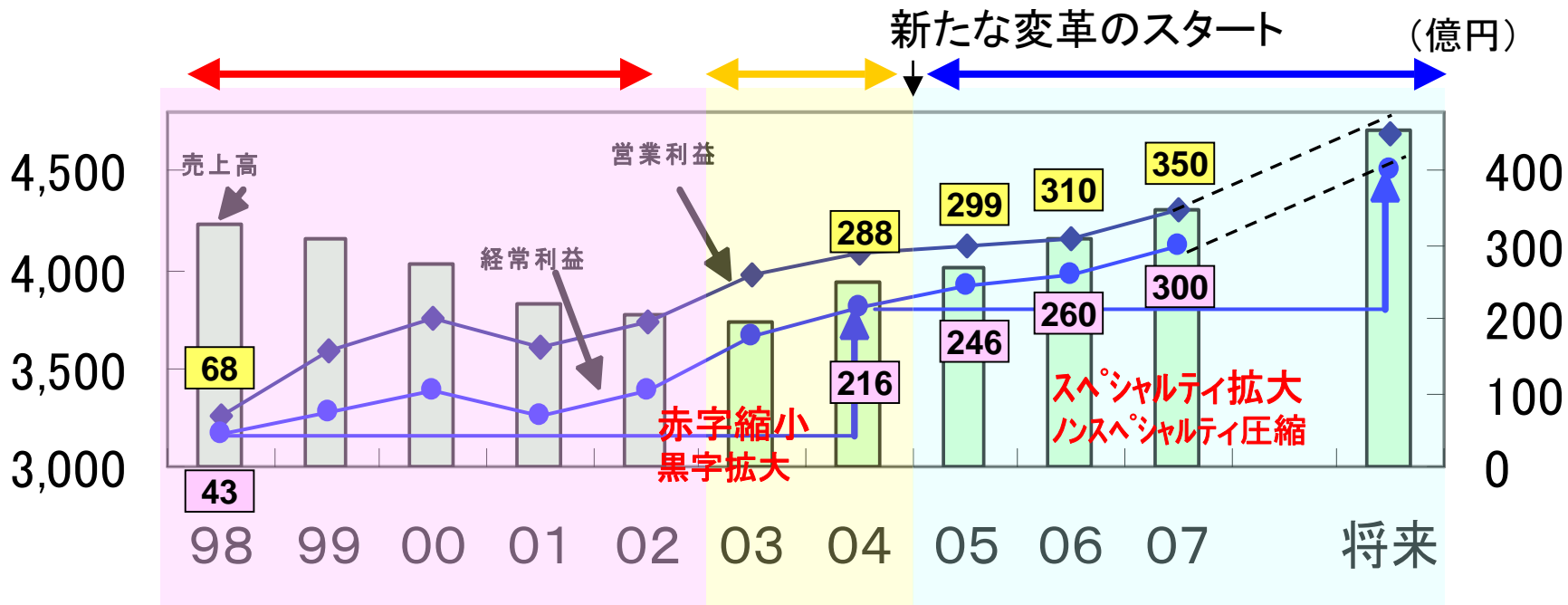
二元経営

「繊維構造改善」+「非繊維拡大」

「スペシャルティ事業を大きく成長」



新たな成長ステージ



当面の目標(06年度見通し／07年度計画)

(億円、%)

	05 実績	06		07 通期 目標
		上期 実績	通期 目標	
売上高	4,019	2,135	4,200	4,300
営業利益	299	152	310	350
スペシャルティ	263	132	276	310
衣料繊維	34	24	42	45
経常利益	246	128	260	300
総資産	5,148	5,231	—	—
自己資本 (自己資本比率)	1,251 (24.3)	1,261 (24.1)	—	—
借入金	2,062	2,120	2,000	—
D/Eレシオ(倍)	1.65	1.68	1.50	—

経営方針

基本方針：事業ポートフォリオ改革の加速

- ・スペシャルティ事業の拡大
- ・繊維事業改革
- ・グループ経営の深化
- ・財務体質の強化

<キー・ワード>

- ・技術ストック
- ・グローバル
- ・現場重視

スペシャルティ事業の拡大 (コア技術戦略)

当社事業の発展・拡大

技術ストック経営

フィルム		機能性ポリマー		要素技術
包装用	光学用	共重合樹脂	成型用	
○	○	●	○	共重合
○	●	○	○	成形・加工
	○	○	○	変性・混合
	○	○	○	分析・シミュレーション
○	●	○		エンジニアリング

要素技術の拡大

進化・融合

コア技術

具体的仕掛け

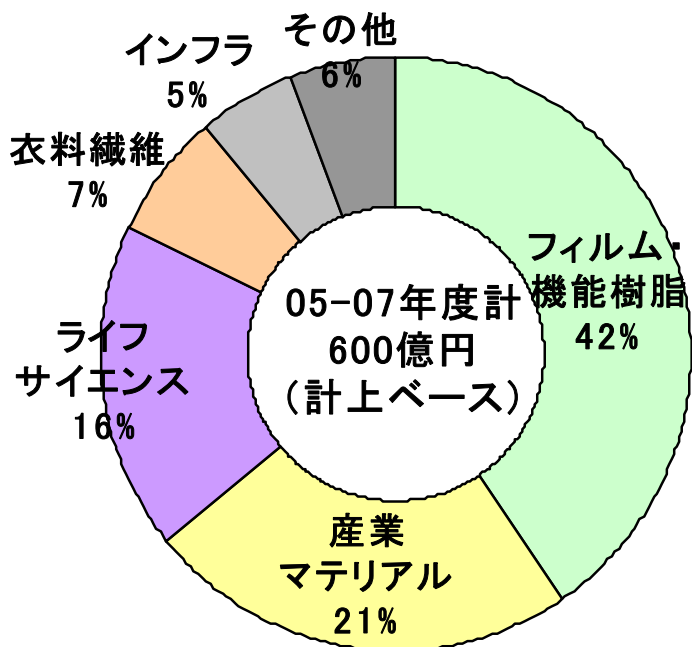
- ・事業組織再編(技術クラスター)(06/4)
- ・事業開発企画室(06/4)
- ・エレクトロニクス事業開発部(06/9)

- ・社長直轄プロジェクト(05/9~)
- ・生産技術革新活動(06/4~)
(現場力強化)

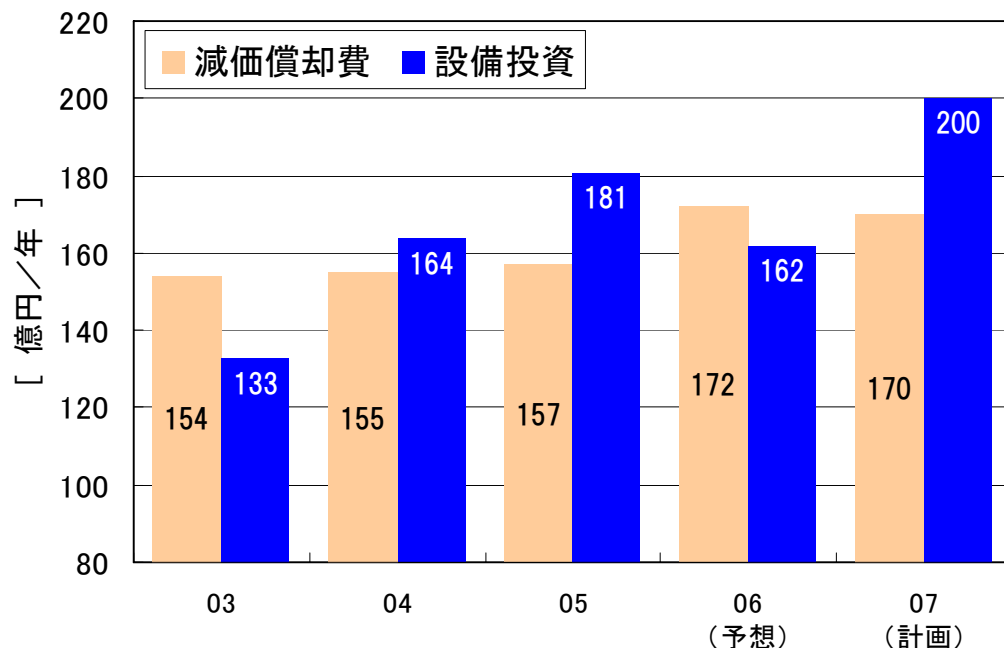


スペシャルティ事業の拡大(重点分野への戦略投資)

事業分野別設備投資(比率)



減価償却費と設備投資



スペシャルティ事業の成長施策と社長直轄プロジェクト

市場		06年度	07年度	08年度～
液晶光学用フィルム	情報表示	●新系列稼働(+10千ト/年)		●新系列稼働(+10千ト/年)
包装用フィルム	食品	→ ○上海ナイロンフィルム本格立上げ		
機能樹脂(エンプラ他)*	自動車	●エラストマー新グレード投入		○新設備稼働(樹脂プラント)
電子材料(PAI等)*	電子	●エレクトロクス事業開発部発足		○新設備稼働
エアバッグ用基布*	自動車	●国内能力増(13千t→15千t)	→	○海外生産拡充
スーパー繊維	生活・安全	●コートタイプ参入(カーテンエアバッグ)	→	○発売
機能フィルター/不織布	環境・自動車	●バグフィルター拡大(設備シフト)		●新系列稼働(日本ダイニマー)(+600ト/年)
人工腎臓用中空糸	医療	能力増(6%/年)	→	
機能性タンパク質*	健康		○事業化	○新設備稼働
診断システム拡大*	健康	●診断システム強化(POC他)		
医薬受託製造・創薬支援	薬品	●新注射剤棟稼働		
海水淡水化膜(RO)*	水	●新設備稼働(+50%)		○新增設
上水膜		●上水・排水分野参入		
*社長直轄プロジェクト		●実施・決定済み	○計画中	



スペシャルティ事業の拡大(グローバル展開強化)

新中計にて具体化

◆ 海外販売拠点の構築

- ・北米、欧州、中国 に スペシャルティ事業拡大のための販売拠点構築
(販売、技術サービス、貿易業務)(07年度に順次)

◆ 自動車用部材の海外展開強化

- ・機能樹脂、エンブラ、エアバッグ、不織布・フィルター

◆ 世界市場で高シェアを誇る製品群の一層の拡大

- ・バッグ・フィルター(PPS繊維70%)、海水淡水化膜(中東40%)、
感光性樹脂(水現像性レタープレス30%)、バイオ関連(診断薬用酵素20%)

◆ 世界の技術潮流に基づく 技術導入、M&A

- ・事業開発企画室に専任担当

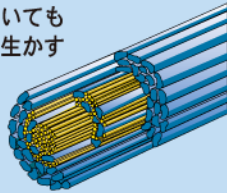
繊維事業改革

- ◆ 資産効率の向上
- ◆ コア技術をベースとした機能性衣料の開発

機能性衣料を支える3つのコア技術

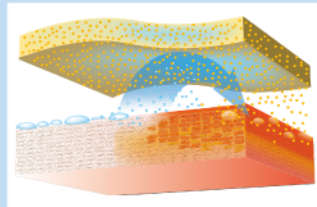
高次複合化技術

総合繊維メーカーとして機能性のある素材をさらに、糸レベルでデザインして行きます。また織りの段階や編みの段階においても機能を最大限に生かす開発を進めています。



機能加工技術

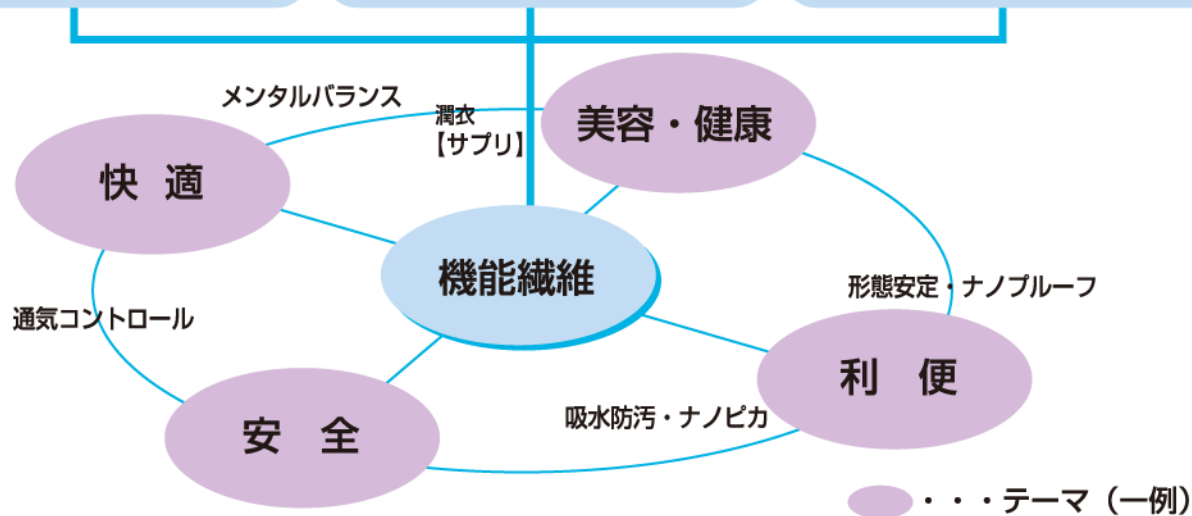
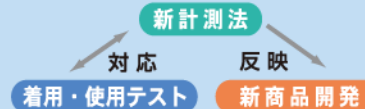
繊維だけではカバーできない要素を加工技術によって進化させます。



計測評価技術

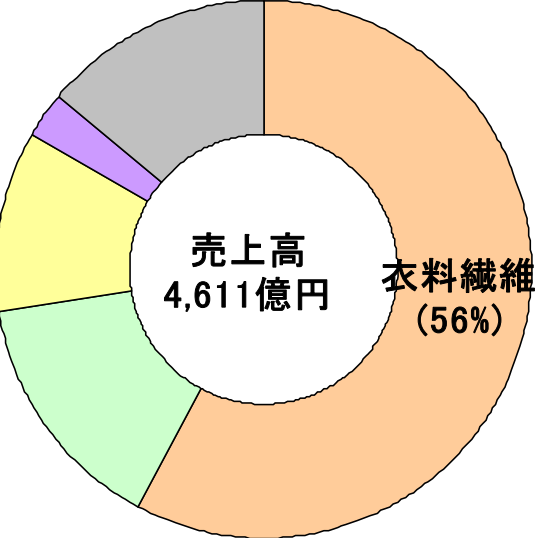


商品に求められる快適性を確保するために、独自の感覚計測技術を開発し、新商品の開発に活用しています。



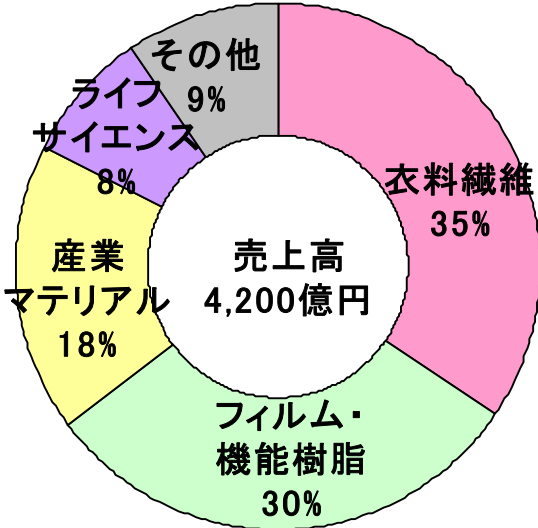
目指すべき事業ポートフォリオ

1995年度



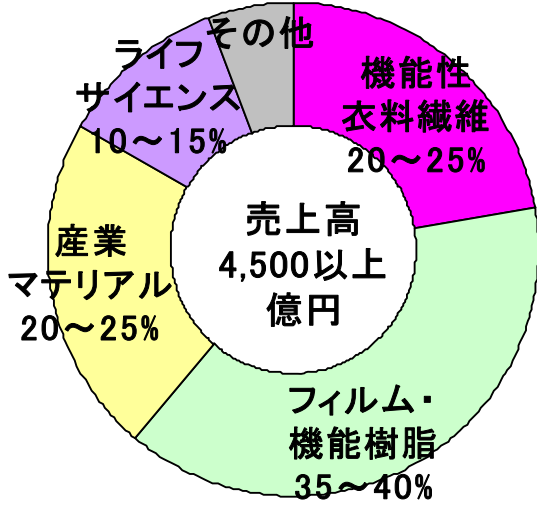
売上高 4,611 (億円)
営業利益 63

2006年度見通し



売上高 4,200 (億円)
営業利益 310

目指す方向



売上高 4,500以上 (億円)
営業利益 400以上



「主役は現場」

◆ 現状否定 / 発想する集団

- 進化は現状を否定することから始まる
- 現状否定が、感度を高め、発想を促す最高の手段

◆ 順理則裕（当社CSRの原点）

- 経済合理性 と 倫理（コンプライアンス）
- 当社基本理念に則り、自らの行動を律すること